様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

# 科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２８ 年　 ６ 月　 ２ 日現在

機関番号：３２６４０
研究種目：挑戦的萌芽研究
研究期間：2013～2015
課題番号：２５５８００２８

研究課題名（和文）チュニジア音楽のトゥブー（旋法）とイスティフバル（即興）の分析

研究課題名（英文）Analysis of modes and improvisations in Tunisian traditional music.

研究代表者
松田　嘉子（MATSUDA, Yoshiko）

多摩美術大学・美術学部・教授

研究者番号：８０４０７８３２

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　1,500,000円

研究成果の概要（和文）：　チュニジア音楽のルーツをめぐって、チュニジア、モロッコ、スペインで現地調査を行い、西洋への楽器の伝播、アンダルスから北アフリカに伝承された音楽形式や旋法等を明らかにし、西洋音楽とアラブ音楽の比較を行った。 チュニジア伝統音楽研究機関「ラシディーヤ」との研究協力により、チュニジア音楽の近代史と特徴を浮かびあがらせ、代表的音楽家の即興演奏を収録した。ジャスミン革命後のチュニジア古典音楽界の変化について記録した。

研究成果の概要（英文）：I did musical field work in Tunisia, Morocco and Spain, to make an investigation into the history of Arab-Andalusian music : musical instruments, forms and modes and made a comparison between European and Arabic music. Thanks to the cooperation with the Rashidiyya Institute of Tunisian Music, I made a research on characteristics of Tunisian traditional music. Also recorded improvisations played by some great musicians on various modes. I wrote a research paper on changes in Tunisian musical milieu after the Jasmine Revolution.

研究分野：人文学、芸術学、芸術学・芸術史・芸術一般

キーワード：アラブ音楽　チュニジア音楽　トゥブー　イスティフバル　ウード　ラシディーヤ

## １．研究開始当初の背景

研究代表者はチュニジアでアラブの弦楽器ウードとアラブ古典音楽理論を学んで以来、アラブ諸国における第一級の音楽家や研究者たちと関わりを持ち、国際フェスティバル出演等演奏家として多くの経験を積んできた。異文化の芸術音楽を実践するには、学術的基盤の充実および不断の研鑽が不可欠である。本研究に先立つ挑戦的萌芽研究 23652042 において、チュニジアおよび関連領域のエジプトやスペインでの現地調査を中心に楽理と実践面での研究を進めてきた。

2013 年 4 月、チュニジアの代表的音楽教育機関「ラシディーヤ」研究所で公演を行い、これまでの実績と作品や演奏のクオリティを評価され、チュニジア伝統音楽を継承するラシディーヤ日本支部としての資格を与えられた。これにより、さらに緊密な情報交換や学術的交流が可能となり、2011 年のジャスミン革命以来変動期に入っていたチュニジア古典音楽界の様相を詳細に観察する地位を得た。

革命に始まる政治的混乱や社会状況の変化の中で、芸術はどのような影響を被り、芸術家たちの立場はどうなるのか。歴史的変革の時期に立ち会い、これを記録しておくべき大きな責務を感じ、本研究挑戦的萌芽研究 25580028 においてチュニジア音楽の最も象徴的な旋法トゥブーと、熟練した音楽家が行う即興演奏イスティフバルの分析を中心に、チュニジア音楽のさらなる研究を続行したいと思うに至った。

## ２．研究の目的

宮廷文化が花開いた歴史を持つアラブ世界は、様々な楽器を発達させ、旋法やリズムに関する理論、歌曲形式、器楽形式を生み出し、西洋音楽に匹敵する大きな音楽体系を築いてきた。西洋音楽と相互の影響関係も重要である。

「アラブの春」以来多くの国でイスラム主義者の台頭や内戦等が続き、音楽や芸術の継承発展に支障が生じてもいる。その発端となったチュニジアも政治的混乱や経済的停滞を免れなかったが、アラブ諸国のうちでは近代的民主主義と政教分離を最も押し進めている成功例であり、教養や芸術保護育成に対する意識も高い。

本研究は、日本ではほとんど行われてこなかったアラブ音楽の理論的研究、中でもチュニジア古典音楽に着目し、そのトゥブー（旋法）とイスティフバル（即興演奏）の体系について、音楽状況・事情を革命前後にわたって比較調査・分析し、独自性と特徴を明らかにすることを目的とする。これはアラブ芸術遺産の重要性を認識し、アラブ世界に対する理解を促進する一助となるのみならず、西洋音楽や日本音楽の特質を再確認することにもつながるだろう。

## ３．研究の方法

(1)現地調査

①アラブ音楽およびチュニジア音楽の代表的演奏家、研究者に聴き取り調査、討議、対談を実施する。古典音楽家の教養、美学、演奏技法、鍛錬法、使用楽器の特質等を記録する。

②その演奏を録音し、旋法、リズム、即興技法などの分析を行う。

③アラブおよび関連領域におけるフェスティバル、公演、コンサート等を聴取し、古典音楽のうち現代に受け継がれる楽曲、好まれる演目等を記録する。

(2)博物館資料調査

アラブ圏および西洋の代表的博物館において、楽器、楽譜、写真、音楽家の伝記的資料の調査および音源・映像資料の収集を行う。

(3)西洋古典音楽とアラブ古典音楽の比較研究

和声と旋法理論、リズム理論、楽器の特質と奏法、記譜法、教育法、美学、作曲家・演奏家・聴衆の関係、歌曲と器楽曲の比重等々について、比較研究を行う。

## ４．研究成果

(1)現地調査と資料収集

①2013 年度～チュニジア、スペイン～

「ラシディーヤ伝統音楽研究所」はチュニジアに初めて設立された音楽研究機関で、アラブ圏でも最も古いものの一つである。チュニジア伝統音楽の継承と発展に多大な役割を果たし、国を代表する楽団を育成してきた。2013 年度からはラシディーヤ研究所との研究協力を中心として、伝統楽曲の記譜法、音楽教育法の変化、新しいチュニジア古典音楽の創造等、20 世紀におけるチュニジア音楽の主要な歴史を記録した。ジャスミン革命によってラシディーヤ楽団長交代という事態が起きたが、その後の研究所の活動方針や新楽団の形成過程等、チュニジア文化芸術界の変化を追いつつ記録した。また文化省主催の国際フェスティバルの趣旨や演目についても調査した。

2014年3月にはスペインのバルセロナで現地調査を行った。2 年前に調査したアンダルシア地方に続き、チュニジア音楽の源流アンダルス音楽を醸成したイベリア半島での調査である。世界最大のギター・コレクションを誇るバルセロナ音楽博物館では、ウードから発達したリュートを始め、イベリア半島で製作された様々な弦楽器を考察し、オリエントからヨーロッパへの楽器の伝播の証左を得た。同博物館が発行した書物や CD 等、豊富な資料を収集した。また、アルベニスを筆頭とするカタロニアの作曲家たち他西洋音

楽のコンサート(ポリオラマ劇場「オペラとフラメンコ」、カタルーニャ音楽堂「カタロニアの作曲家たち」、カタルーニャ音楽堂「エンリコ・オノフリ・シンフォニー」、リセウ大劇場「ニーナ・シュテンメ・リサイタル」等)を聴取し、演奏形態、観客と演奏家との関係、楽器編成や歌唱法など、数々の観点からアラブ音楽と西洋音楽の比較を行い、それぞれの特質を確認した。

②2014 年度～チュニジア～

2014 年 7 月～8 月、チュニジアにおいて現地調査を行い、シディ・ブサイドにある「エンナジュマ・エッザッハラ」地中海アラブ音楽研究センターにおいて、図書資料、音源資料を収集し、チュニジア音楽の歴史、楽器、代表的音楽家の生涯や作品について調査した。

またラシディーヤ研究所において、チュニジア古典音楽界の変化や現状について引き続き調査した。ムラッド・サクリ研究所長の文化大臣就任後、新所長となったヘディ・モホリにインタビューを行い、研究員たちとの意見交換を通じて、研究所の活動方針についての詳細な情報を得た。ラシディーヤ創立 80 周年を機に 2014 年ラマダンに発足した第 1 回「タルニメット音楽祭」にはグループを率いてウード奏者として出演し、ラシディーヤ地方支部(ケルアン、カリビア等)の楽団員たちと交流しながら、古典楽曲の演奏における派生形やよく使用されるトゥブーについて、有意義な議論を行った。

さらにナイ奏者スラーフ・エッディン・マナー、ウード奏者ハリッド・ベッサによる伝統的なトゥブーにもとづく即興演奏の録音・録画資料を作成した。

チュニジア滞在中「サマイ・ナハワンド」(ナハワンド旋法による器楽形式サマイ)を作曲し、「チュニス」と命名した。以後、内外の公演で演奏し、とりわけチュニジア人たちに親しまれている。

③2015 年度～モロッコ～

チュニジア音楽と共通のルーツを持つモロッコ音楽研究のため、2015 年 10 月～11 月、カサブランカとラバトにおいて現地調査を行った。ロトフィ・シュライビ芸術文化連盟会長と会談し、首都ラバトにあるコミュニケーション省、日本大使館、ムハンマド 5 世劇場、文化省、国営ラジオ・テレビ放送局等、音楽と文化に関わる主要機関で聴き取り調査を実施し、代表的音楽家の活動や文化省の方針等の情報を得た。

カサブランカでは、ウードの巨匠サイード・シュライビを主たる調査対象とした。最高のウード奏者・作曲家で優れた楽器製作者でもあり、アンダルスで発達した様々な弦楽器を製作する貴重な歴史の証人であった。音楽・美術・建築・工芸等、アンダルス由来の芸術の伝承保護と育成を目的として「サイード・シュライビ財団」を立ち上げようとする矢先、2016 年 3 月急逝されたが、その壮大な意思は今日の音楽家や研究者になお指針を与えるものである。サイード・シュライビはモロッコという枠を超えた音楽家であったため、チュニジア音楽のトゥブーと共通するような旋法はもちろん、様々なオリエントの旋法も駆使し、即興演奏や作曲をしていることが考察でき、多大な意義があった。初版 CD「グラナダの鍵」1, 2 を始め稀少な名盤を献呈され貴重な音源資料となった。

(2)CD・論文・解説記事等の出版

①2013 年 4 月のチュニジア公演録音から CD「ル・クラブ・バシュラフ／コンサート・アット・ダール・ラシディーヤ」を出版(2013 年 10 月)し、その楽曲解説をウェブサイト上に発表した(2014 年 8 月)。

②地中海学会月報第 370 号に「ル・クラブ・バシュラフ」コンサート～チュニジア・ラシディーヤ伝統音楽研究所にて～を掲載(2014 年 5 月)し、ラシディーヤ研究所の来歴とジャスミン革命後の音楽状況を解説した。

③2013 年度以降チュニジアを調査した成果を研究論文『チュニジア伝統音楽研究所「ラシディーヤ」』として多摩美術大学紀要第 29 号(2015 年 3 月)に発表した。

④週間図書新聞第 3231 号(2015 年 11 月)に新井裕子著『イスラムと音楽』の書評を掲載し、チュニジアの研究者バロン・デルロンジェにより提唱されチュニジアの音楽家たちも参加した 1932 年第 1 回アラブ音楽会議について解説した。

(3)講演・公演等

上述したチュニジア公演(2013 年、2014 年)の他、国内でもチュニジア音楽、アラブ音楽の様々な公演、講演等を行って研究成果を発表し、日本の聴衆にアラブ古典音楽の楽器や楽理、名曲や即興演奏、美学等への理解を促進している。

①六本木ミッドタウン d-labo セミナーで講演「アラブ音楽の歴史と現在～エジプトとチュニジアの音楽を中心に～」を行い、最新のアラブ音楽、チュニジア音楽の状況について解説した(2013 年 6 月)。

②FM 音楽番組『A・O・R』「チュニジア音楽特集」に音源提供を行い解説者として出演し、チュニジア音楽の歴史や特徴、カルタゴ音楽祭や代表的音楽家を紹介した(2015 年 9 月)。

③東京音楽大学付属民族音楽研究所 2015 年度公開講座 No.4「ウードとリュート」(2016 年 1 月)において、イベリア半島で発展した音楽や楽器について、実演を交えて講義した。

この他、平河町ミュージックス第 23 回「アラブ音楽の夕べ」(2013 年 10 月)、「小泉文夫没後 30 年企画メモリアルコンサート Fethno」(2013 年 11 月)、「アラブ音楽のコンサート」(国立新美術館、2014 年 3 月)、「チュニジア音楽コンサート」(瀬戸市国際センター、2014 年 11 月)等、同様の公演講義解説を多数行った。

(4)作曲作品の CD 収録およびビデオ公開

①チュニジアのハスィン旋法で作曲した「サマイ・ハスィン」(ハスィン旋法による器楽形式サマイ)は、2013 年ラシディーヤ研究所公演で演奏し、CD「ル・クラブ・バシュラフ／コンサート・アット・ダール・ラシディーヤ」に収録した。

②オリエントのサバ旋法で作曲した「サマイ・サバ」(サバ旋法による器楽形式サマイ)を上記 Fethno の録音 CD に収録した。

この他にも、「サマイ・クルディ(クルディ旋法による器楽形式サマイ)」、「ルンガ・ナハワンド(ナハワンド旋法による器楽形式ルンガ)」、「タクスィーム・サバ(サバ旋法によるウード即興演奏)」等の作曲作品および即興演奏の録音を、YouTube や soundcloud 等ウェブ上に公開している。チュニジアのトゥブー始めオリエントの旋法が、アラブ人以外にも普遍性を持つ楽理として理解され作曲や即興演奏が可能であるという大きなインパクトを、日本人のみならずアラブ諸国の人々、またアラブ音楽に興味を持つ西洋の人々に与え、評価を得ている。今後も未録音作品の録音発表や楽譜集の出版等を視野に入れながら、クオリティの高い作品を創作し続けたい。

イスラム過激派組織やテロ、難民問題等、国際社会が対峙する諸問題が集中していることもあり、中東・北アフリカのアラブ世界を対象とした研究は、政治・経済・歴史的な観点からは飛躍的に進展していると思われる。「アラブの春」とは何だったのかという検証も行われつつあるだろう。本研究はアラブの春の発端となったチュニジアを文化芸術面から考察し、ジャスミン革命と古典音楽界の動向を継続的に記録した点で、諸分野での研究が及ばなかった側面を大きく補足するものである。チュニジア音楽の旋法体系の分析整理も進展したので、今後マグリブ諸国やエジプト他のオリエント諸国との影響関係を探求しつつ、アラブ古典音楽のさらなる合理的解明を推進する。

写真　:モロッコ現地調査時におけるサイード・シュライビと研究代表者

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　1 件）

①松田　嘉子、チュニジア伝統音楽研究所「ラシディーヤ」、多摩美術大学研究紀要、第 29 号、109-123 頁、2015 年、査読有

〔学会発表〕（計　0 件）

〔図書〕（計　0 件）

〔産業財産権〕

○出願状況（計　0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計　0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

①アラブ・ミュージック・コム
http://www.arab-music.com

②d-labo セミナー「アラブ音楽の歴史と現在」
http://www.d-laboweb.jp/event/report/130617.html

③地中海学会ホームページ地中海学会月報第 370 号
http://www.collegium-mediterr.org/geppo/370.html
④公益財団法人カシオ科学財団成果事例
http://casiozaidan.org/naiyou/seika/
⑤FM 音楽番組 A・O・R「チュニジアの音楽」特集 解説
http://www.jfn.jp/News/view/aor/29768
⑥東京音楽大学付属民族音楽研究所公開講座「ウードとリュート」
http://www.minken1975.com/kouza_exhibition/20160108.html

## ６．研究組織

(1)研究代表者

松田　嘉子（MATSUDA, Yoshiko）
多摩美術大学・美術学部・教授
研究者番号：80407832